

反覆スルモ妨ナク。注入セラル可キ液ノ總量ハ腹部ヲ膨満セシメザルヲ程度トセリ。

注入後數時間ニシテ、ソノ六〇%以上ハ吸收セラレ、二十四時間後ニハ三百立方糎ニ達ス。吸收ノ程度ハ幼兒ノ年齢ニ相當シ、初生兒ニ於テモ又然リ。

注入液トシテ、リンゲル氏液、生理的食鹽水、「デキストリン」液等使用セラレ、コレラハ他ノ藥劑ヲ添加セラ、コトアリ。

術後、脈搏、呼吸、體重及一般症狀ニ對シテ、可良ノ結果ヲ及シ、ソノ發現、時ニ速カナルコトアレドモ、一般ニハ六時間以內トス。

適應症ハ、總テ體液缺乏セル時、幼時ノ中毒、ソノ他、他ノ方法ノ無效、不可能ナル場合トス。

コノ方法ハ、他ノ手段ヨリ單簡、容易ナルト同様有效ニシテ、同氏ハ皮下注射ニ比シテ右ノ如ク斷言シ、代表的ナル五例ニ於テ、詳細ニソノ成績ヲ報告セリ。

(松谷抄)

雜報

●會員動靜

敘從六位

正七位勳五等

南川義一

任陸軍二等軍醫正

陸軍三等軍醫正從五位勳三等功五級

奈良眞三郎

任陸軍二等軍醫正

陸軍三等軍醫正正六位勳四等

津田春

任陸軍二等軍醫正

陸軍一等軍醫正六位勳四等

片山雄

任陸軍三等軍醫正

陸軍一等軍醫從六位勳五等

白形淺藏

任陸軍三等軍醫正

陸軍一等軍醫正六位勳四等

丹羽浩

任陸軍三等軍醫正

陸軍一等軍醫正六位勳四等

漆原亮平

任陸軍二等軍醫正

陸軍二等軍醫從七位

藏本貢

任陸軍一等軍醫

步兵第七十七聯隊附陸軍三等軍醫正 白形淺藏

陸軍二等軍醫正 津田春  
陸軍三等軍醫正 丹羽浩

陸軍三等軍醫正 片山雄

待命被仰付

漆原亮平

補步兵第二十聯隊附兼福知山衛戍病院長

步兵第四十四聯隊附陸軍三等軍醫正

(七月二十日)

步兵第四十五聯隊附陸軍二等軍醫 矢野義徳

免本職待命被仰付

海軍軍醫大尉 櫻井郷三

免本職補臺灣歩兵第一聯隊附

步兵第五十七聯隊附陸軍二等軍醫

井原愛雄

豫備役被仰付

山本申三

免本職補字品陸軍糧秣支廠附

大橋要人

步兵第二十八聯隊附陸軍三等軍

(八月一日)

免本職補歩兵第八十聯隊附

仙臺衛戍病院附陸軍一等軍醫

森本末吉

陸軍一等軍醫 大内健太郎

大内健太郎

陸軍運輸本部附陸軍一等軍醫

森本末吉

補陸軍士官學校附兼同校本科教官

陸軍一等軍醫 大内健太郎

臨時陸軍檢疫所所員兼勸被仰付

深山重砲兵聯隊附兼由良要

野上尙志

步兵第五十七聯隊附陸軍一等軍醫

平井重次郎

免本職陸軍運輸本部附被仰付

塞司令部附陸軍一等軍醫

野上尙志

依願休職被仰付

衆議院議員 大林森次郎

臨時陸軍檢疫所所員仰付

函館重砲兵大隊附兼函館要塞司令部附陸軍一等軍醫

野上尙志

大正四年乃至九年事件ノ功ニ依リ銀杯一組ヲ賜フ

(八月十三日)

免本職補獨立守備歩兵第五大隊附

遼陽衛戍病院附陸軍一等軍醫

藏本貢

臺灣總督府醫學專門學校教授

横川定

免本職補獨立守備歩兵第五大隊附

遼陽衛戍病院附陸軍一等軍醫

藏本貢

歸任ノ途次上京ヲ命ス

(八月十八日)

免本職補獨立守備歩兵第五大隊附

遼陽衛戍病院附陸軍一等軍醫

藏本貢

歸任ノ途次上京ヲ命ス

(八月十八日)

免本職補獨立守備歩兵第五大隊附

遼陽衛戍病院附陸軍一等軍醫

藏本貢

歸任ノ途次上京ヲ命ス

(八月十八日)

免本職補獨立守備歩兵第五大隊附

遼陽衛戍病院附陸軍一等軍醫

藏本貢

歸任ノ途次上京ヲ命ス

(八月十八日)

免本職補獨立守備歩兵第五大隊附

遼陽衛戍病院附陸軍一等軍醫

藏本貢

歸任ノ途次上京ヲ命ス

(八月十八日)

免本職補獨立守備歩兵第五大隊附

遼陽衛戍病院附陸軍一等軍醫

藏本貢

歸任ノ途次上京ヲ命ス

(八月十八日)

免本職補獨立守備歩兵第五大隊附

遼陽衛戍病院附陸軍一等軍醫

藏本貢

歸任ノ途次上京ヲ命ス

(八月十八日)

免本職補獨立守備歩兵第五大隊附

遼陽衛戍病院附陸軍一等軍醫

藏本貢

歸任ノ途次上京ヲ命ス

(八月十八日)

級  
勳等賜金

瑞六等 四〇〇  
旭日小 二一〇〇  
綬章 二一〇〇  
旭六等 八〇〇

陸軍官等位勳功 氏 名

二等軍醫從七位 橋本政一

三等軍醫正從 六位勳四等 武部元雄

二等軍醫從七位 高原武一

(大正九年十一月一日)

○大森大亮君 は豫て瑞西國に留學中なりしか今般塊太利に轉學し左記の處に寓せられたり

Bei Dr. Haas,

Lange Gasse 53<sup>11</sup>,

Wien VIII.

○北光三君 は豫て瑞西國ヘルン市に於て研究中なりしか今般塊太利に轉し左記教室に於て Prof. Biedl 氏に就き研究されつゝあり

Experimentell-Pathologisches Institut

der deutschen Universität,

Prag, Österreich.

○村山富治君 は豫て米國賞府に於て研究中なりしか先月左記の處に轉せられたり

711 Pilgrim Road,

Boston, Mass.,

U. S. A.

○横川定君 豫て臺灣總督府より歐米に留學を命せられ居りし同君は今般無事歸朝本月十三日當地に着し一旦郷里に歸省し本月下旬出發上京し九月中旬臺灣に歸任せらるゝ筈なり

○藤江薰太郎君 は今般尼ヶ崎市庄下米澤醫院に勤務せられたり

○重松輝好君 は先般より和歌山市赤十字社病院内科に勤務せられたり

○山本尙義君 は今回薩哈噠洲派遣日本赤十字社救護班醫として勤務せられたり

○半田稔君 は今般姫路市日本赤十字社病院婦人科に勤務せられたり

○飯田俊彦君 は豫て山口縣岩國町藤本病院に勤務し居られしか今般廣島市千田町關西病院に轉勤せられたり

○橋本孝之助君 は豫て大阪市回生病院に勤務し居られしか今同市南區西清水町小野耳鼻咽喉科病院に轉勤せ

られたり

○一宮一徳君 は今般大分縣立病院を辭し朝鮮大邱慈惠醫院に勤務せられたり

○加藤三郎君 は豫て朝鮮釜山大廳町に於て開業し居られしか今般滋賀縣木之本町伊香病院に轉せられたり

○藤原角一君 は豫て福岡縣粕屋郡久原村久原炭坑會社に勤務し居られしか今般本縣都窪郡倉敷紡績會社倉敷工場附屬病院に轉勤せられたり

○大原孝度君 は今般神戸市福原病院に勤務せられたり

○唐澤利千雄君 は今般臺灣臺北醫院第二内科に勤務せられたり

○正田明貫君 は豫て岡山醫學專門學校附屬醫院内科に勤務し居られしか今般京都帝國大學醫學部産婦人科教室に勤務せられたり

○雲英元雄君 も豫て岡山醫學專門學校附屬醫院内科に勤務し居られしか今般長崎縣長崎港外端島炭坑醫局に轉勤せられたり

○建銳朗君 も豫て岡山醫學專門學校附屬醫院外科に勤務し居られしか今般朝鮮平壤慈惠醫院に轉勤せられたり

○野坂綱定君(舊姓安江) は豫て岡山醫學專門學校附屬醫院光線科に勤務し居られしか今般京都帝國大學醫學部辻内科教室に轉勤せられたり

○高橋良雄君 は今般大分縣立病院を辭し大分縣東國東郡旭日村に於て開業せられたり

○横田豊治君 は豫て岡山醫學專門學校附屬醫院小兒科に勤務し居られしか今般同院を辭し豊橋市に於て開業する筈にて歸郷せられたり

○緒方顯孝君 は豫て神戸市細見耳鼻咽喉科病院に勤務し居られしか今般同院を辭し同市仲町通二丁目に於て開業せられたり

○保井安次郎君 は豫て兵庫縣宍粟郡山崎町に於て開業し居られしか今般當市弓之町に移轉開業せられたり

○出口林一君 は豫て郷里に於て開業し居られしか今般四日市市下新町に移轉開業せられたり

○武内省也君 は豫て郷里本縣兒島郡與除村に於て開業し居られしか今般同郡味野町に移轉開業せられたり

○淵田俊治君 は豫て大阪市南區千年町に於て開業し居られしか今般同市南區鰻谷西之町に移轉せられたり

○高木常雄君 は今般本縣兒島郡與除村中畦に移轉開業せられたり

○中田理吉君 は豫て當市村田産婦人科醫院に於て診療に従事し居られしか今回同院を辭し歸郷せられたり

近藤元春君逝く 君は明治二十五年第三高等中學校醫學部を卒業し爾來和歌山縣那賀郡粉河町に於て開業し居られしか去月二十二日永眠せられたりと洵に哀悼に堪へざるなり

保田照君逝く 君は大正八年岡山醫學專門學校を卒業し福岡縣粕屋郡海軍採炭所に勤務し居られしか去月二十六日病を以て遠逝せられたりと洵に痛惜に堪へざるなり

## 原著紹介

(雜誌順序不同)

### ●治療新報(第三二六號)

盜汗ノ療法 (角尾晋)

腸壁扶斯血清療法 (森牛兵衛)

### ●治療新報(第三二七號)

傳染病ノ經過中ニ發スル重篤症狀ノ療法 (山川保城)

### ●日本學校衛生(第九卷第七號)

學校衛生ト國民衛生 (高野六郎)

教育衛生ヨリ觀タル活動寫眞 (古瀬安俊)

性慾教育論ノ概觀 (佐藤富治郎)

生徒兒童ノ扁平足調査ニ就テ (中神貞作)

兒童身體検査ノ適當ナル處理方法 (鈴木市右衛門)

### ●國家醫學雜誌(第四一四號)

敵毒ト妊娠中絶トノ關係 (佃貞寛)

實驗的亡血研究 (谷實抱)

死刑囚ノ頭骨及腦ニ就テ(承前) (原正)

### ●日本鐵道醫協會雜誌(第七卷第七號)

第一回國際勞動會議ニ於テ決定セラレタル條約案ト現行工場法トノ對照 (古瀬安俊)

胃及十二指腸潰瘍ノ診斷ニ就テ (近藤康)

ワッセルマン氏反應ニ關スル諸家ノ意見 (辻亮吉)